

## 自身のこれまでを振り返り つつ、伝えられること

所沢市立北小学校 谷口 誠太郎

私は今年教員生活14年目を迎えた。振り返ると、楽しいことや嬉しいこと、苦勞したことや辛いことがたくさんあった。私の経験を踏まえて、今年から教員として頑張っているみなさんへ伝えられることを綴ろうと思う。

### 失敗を糧にする

私の1年目は失敗だらけであった。「この仕事を続けていけるだろうか」と不安になったときもあった。授業、トラブルの解決、保護者への対応……と、今思い出しても冷や汗が出る。しかし、いよいよクラスがどうにもならなくなったときに、私はこう考えた。「今年は諦めて、失敗を来年に活かそう」人間がやる以上、失敗はついて回るものである。失敗をすれば、当然、落ち込んだり不安な気持ちになったりするが、時を戻すこと

はできない。クラスの子とも達やその保護者、同僚の先生方には「悪いな」と思いつつも、こう考えることができたから今の私がいる。

「失敗は成功のもと」「過ちで改めざる、これを過ちという」など、先人の言葉は大体正しいものだ。翌年以降、失敗した部分を改善できたから、教員を続けることができた。14年目の今でも大なり小なり失敗はしているが、そのたびに同じように考えている。今苦しい思いをしている方も、これから悩みの壁にぶち当たる方も、何とか今年を乗り切って来年以降に繋げてほしいと思う。

### タイプ

現代では「タイプ（タイムパフォーマンス）」が重視されるそうだ。確かに、無駄な時間は少ない方が良い。

しかし、この言葉に囚われ過ぎないでほ

しいと思う。どんな時間が無駄で、どんな時間が無駄ではないのかは、やってみないと分からないことが多い。誰しも、初めてやることには時間がかかるものだ。今年度から教員になったみなさんも、様々なことに時間が掛かり苦勞していることと思う。だが、自分にできるやり方を考え、知恵を働かせる時間というのは無駄ではない。自身のスキルアップにつながるからだ。そして、それこそが教員の仕事の面白さや楽しみなのだ。

もちろん、教育現場が置かれている状況は大変厳しく、時間外労働があまりに多い現状は早急に改善されなくてはいけない。教員の仕事の醍醐味を失わないようにしつつ、誰もが無理なく働ける現場を作ってほしいと思う。これは、我々先輩の役目である。

### 終わりに

職場にはたくさんの仲間がいる。自分の失敗をフォローしてくれる頼もしい先輩、切磋琢磨し励まし合える同年代。学校の外にも、繋がり助け合える仲間がきつという。(私も、どれだけ多くの人に救われてきたことか!) 仲間の輪を広げ、厳しい教育現場を強くしなやかに生き抜いてほしい。

# お疲れさま 新たに教職員にな

特集

## 子どもたちが

## いてくれるから

久喜市立東中学校 岡部 桂太

新採用おめでとうございます。教師としての新たな一步を踏み出されたことに、心からお祝い申し上げます。私たちの大切な教育現場に、新しい風を吹き込んでくださることを期待しています。

さて、新しく教師になるみなさんへのメッセージということで依頼を受けました。先に断っておきたいことがあります。それは、私がここに載せる文章が、みなさんの道標になるものではないということ。私自身もまだ教師になって6年目であり、経験不足でもあれば、大した人間でもありません。みなさんよりちょっと経験があるだけの、平凡な若手教師でしかありません。「こんな教師もいるのか」程度に読み流していただければと思います。「教師という職業は、「ブラックだ」とい

う言葉が多く聞こえますが、それと同じくらい「安定した職業だ」という声も聞きます。それは、仕事がなくなる、という状態がないからではないでしょうか。だから「ブラック」なのかもしれません。(笑)。

ここで私が何を言いたいかというと、教師は拘束時間の長い仕事だと言いたいのではなく、終わりの見えない仕事だと言いたいのもありません。「仕事がある」ということは、給料をもらえるということ。す。「何を当たり前のことを言っているのか」そう思うかもしれません。しかし、私がここで考えてほしいのは、「なぜ仕事は次々と生まれるのか」ということで、それはつまり、「子どもたちがいてくれるから」だと思っています。子どもたちが学校に来てくれるから授業をすることができる。子ども

もたちが話しかけてくれるから、色々なことを教えたり、時には教えられたりすることが出来る。子どもたちが「また明日」と言ってくれるから、私たちにも明日が来る。私は、常にそう考えるようにしています。子どもたちがいてくれるから、おいしいご飯やお酒が楽しめる。教師は子どもたちに比べて、立場が上だということから、とかく偉そうな態度になりがちです。「なんでこんなこともできないのか」、「普通に考えたらこんなことしないだろ」、そう言いたくなる時もあります。しかし、子どもたちはまだ未熟です。だから、いろいろなことを間違えます。間違えるからこそ、そこに教師の必要性が生まれます。だから私たちは働くことができます。そう考えると、私たちの仕事って、素敵な仕事だと思いませんか。そう考えるから、私たちの仕事って、決して手を抜くことはできません。やりがいのある仕事だと思いませんか。目の前の子どもたちを、全力で愛しましょう。

# 主権者として尊重し、

## 共に考える

埼玉県立蓮田松韻高等学校 神長 真志

1学期も後半戦を迎えましたが、元気に  
お過ごしでしょうか。そろそろ職場に慣れ、  
疲れが溜まったとともに、職場に対する疑  
問なども出てくる時期だと思います。

私は今年初任校に赴任してから7年目を  
迎えますが、初心に帰るという自戒の意味  
も兼ねて、みなさんに自分の体験をお話し  
できればと思います。

現在は2周目の学年を回しながら、進路  
指導に関する指導を中心に分掌業務をこな  
しています。また、この学年は1年から新  
課程の科目が始まり、昨年度は「公共」、  
今年度は「歴史総合」の教科指導をしてい  
ます。新課程では知識だけでなく、思考力  
や主体性を図るために、授業や考查などで、  
テーマに対して自分で考え、文章で表す課  
題をいくつか課すことがあります。その中

で感じていることは、考える力は学力に関  
係なくみんなしっかりと発揮できるという  
ことです。「さすが高校生！15年以上生き  
る中でいろいろと思うところ、感じるこ  
ろがあり、それに対して意見を持っている  
んだな」と感じる場面が多々あります。そ  
んな経験を感じているからこそ、今では高  
校生も教員も同じ主権者であることには変  
わらないから、対等に接しながら生徒と一  
緒に考える、という姿勢を大事にしようと  
思うようになりました。

今ではこういうことに考えることができ  
ますが、最初に担任をしていたときは四苦  
八苦していた毎日でした。「先生としてちゃ  
んとしなければ！」と思いつながら、生活指  
導や教科指導はちゃんと教え込まなければ  
ならない、という気迫を持ちつつも、それ

でも変わらない生徒の様子に苦しみ、悩ん  
でいました。

私はもともと人と接するのが苦手で、生  
徒と話すことにも抵抗がありました。それ  
でも指導するためには生徒と話さなければ  
ならない。それが毎日嫌でしょうがなかつ  
たと感じていました。

考えが変わったのは3年の担任をしてい  
るときです。進路を決めるため、4月から  
毎日生徒と雑談という名の面談を繰り返し  
行う中で、次第に彼らの考えに触れること  
ができました。自分を変えたいけどそのタ  
イミングが分からない、やりたいことはあ  
るけどその方法が分からない、そういった  
質問が多く、そういった悩みを聞いて一緒  
に考えるうちに、生徒と話すのが苦ではな  
くなり、いまではむしろ生徒と話して、一  
緒に考えてみたいと思う自分がいます。1  
年目のころと比べると今でも自分がこう  
なったことが信じられません。

彼らも私たちも同じ悩みを抱える者同士  
です。生徒ともそうですし、教職員同士で  
も手を取り合いながら一緒に教育を支えて  
いければと思います。これからよろしく  
お願いします。

# 生徒の成長が 明日を楽しみにしてくれる

県立盲学校 清水直矢

「これなんですけど…」ソウ（担任する

生徒）の実習の最終日に、受け入れ先の方から、差し出された実習日誌は、表紙が穴だらけでボロボロだった。特別支援学校では、進路決定のため、企業で数日間働く現場実習がある。その時のソウの日誌がボロボロだったのである。後日わかったのは、エアガンで打ったということだった。背景には、左手麻痺があるソウが、実習先で「明日はもっと早く着替えるように」と言われたことや、シングルマザーの母親も多忙で、あまりソウに関われていなかったことがあった。

他にも、普段からソウは、宿題を忘れてたり、学校にエアガンを持ってきたり、何かを教員に指摘されると言い訳をしまかしたり、忙しいことを理由に怒り出したり

することがあった。

一番気になっていたのは、交際しているユイとのことである。ある時、ユイの髪を撫でたり肩に腕を回したりするスキンシップが多いことを教員から指摘されたことがあった。ソウは、自分への指摘を認められず、教員に対して逆上し、反抗的な言動を取ってしまった。様々な面で課題が多いソウだが、ユイとの関係性の中で、過剰な反応をしたり、周りが見えなくなってしまうことが多かった。

ソウはよくユイが落ち込んでいると、一緒に落ち込んでしまうことがある。机にずっと突っ伏したり、寝たふりをしたり、不機嫌になったりするなど、授業に影響することもあった。

ついこの間の朝、スクールバスから泣き

ながら降りてくるユイと、その隣で寄り添いなだめるソウの姿があった。「何かあったな…。また一時間目の授業にソウも参加できなくなるのかな」と思った。声をかけると、「大丈夫！（ユイが落ち込むことに）もう慣れた！」とさらっと言っていて、普通に授業に参加していった。これまでのソウだったら明らかに落ち込んでいる様子を見せ、授業に参加できなかっただろう。しかし、この日のソウは落ち込む様子はなく、むしろ「本当に大丈夫そうだな」と思える頼もしさがあった。その日、ソウは普段通りの一日を過ごした。自分なりに気持ちを送り替え、何事もなかったように一日を送れるなんて、いきなり成長したソウに出会い、なんだか嬉しくもあり、心から驚かされた。

私はこれまで、ソウをうまく指導できない、失敗してばかり、教員向いてないなあと何度も思っていた。この仕事をやめてしまった方が楽だと思いうこともあった。しかし、一方で、いつの間にかソウは少しずつ大人になっていた。ソウの成長を自分事として喜べたこと、それが教員としての私のやりがいだと実感した。ソウの卒業を楽しみに残りの九か月を大切にしていきたい。

# ご尽力が報われますように

埼玉県立小川高等学校 新井直也

新着任のみなさま、お疲れさまです。職場に馴染み、少し肩の力を抜いてお仕事に励んでいることでしょうか。着任当初で私にとって思い出深いのは、毎日が飛ぶように過ぎたこと。学校司書の仕事柄、蔵書管理から生徒対応まですべて一人という環境に初めは慣れず、学期末までがあつという間でした。

たくさんの方の反省も忘れません。いまでは目も当てられない空回り。先生方の手助けがなければ解決しなかったあれこれ。救ってもらった数知れない経験が役に立てばと、ここで忘れられない失敗を挙げたいと思います。

まず文化祭。恒例になっていた図書委員会の古本市ですが、生徒の扱いに慣れないこともあり準備で四苦八苦。あまり乗り気

ではない彼らになんとか指示しながら迎えた当日は、結局人手が足りず私が手一杯に。僅かな売上を除いても収穫はなく、初めての文化祭はほろ苦い体験になりました。前例に頼って失敗の一方、新しい試みも不発続きでした。図書館業界で話題の「ピリオバトル」「ボードゲーム」などを試せないか、館内レクを企画したり馴染みの生徒を誘ったり。しかし進んで足を運ぶ生徒はむしろ例外。彼らが「次いつですか？」と目を輝かせたのは嬉しかったですが、準備の労に割が合わないとも感じ、継続するかが悩みの種でした。

ベテランの先生と雑談していて「報われていない」と指摘されたのもこのころ。そのときは「ツイていない」のような意味に受け取ったのですが、モヤモヤを残したま

まこの言葉が折に触れよみがえることになりす。

転機は「探究学習」だったと思います。授業や研修でその成功例、コンセプトに触れるうち、自分の失敗はまさに「非探究的」な姿勢にあったと目が覚める思いがしました。とりあえず前例踏襲。大人の指示に生徒が従うだけ。意欲のある少数生徒に頼りきり。生徒の「やりたい」よりも大人の「やらせたい」……。恥ずかしいほどの悪例集です。第一に、学校は生徒が主役として輝く場所なのだと思います。どうすれば彼らの隠れたアイデアや得意を引き出せるか——つまり生徒が楽しめるか。図書委員とのミーティングの場も増えました。主役は生徒（大人ではなく）、を肝に銘じて。

「報われていない」の言葉はいまならこう解釈します——「このままではだめ」。それを気づかせてくれる人（生徒も）がいたおかげで、初年度を学びに変えることができました。みなさまもそのような出会いに恵まれることを願っています。

蛇足ながら、ひと息つきたいときにはぜひお近くの学校図書館へどうぞ。本と人のよい「出会い」が待っているはず。どこかでお会いできることを楽しみにしています。



# 子ども達と

## 「つながらる」こと

私塾主宰 吉田雅人

私は、浦和で、児童文学を教材にした私塾を主宰しています。扱う作品にも「学校」を舞台にしたものが少なくありません。

六年生に配当した作品『二十四の瞳』（壺井栄・作）の中に、こんな場面があります。

今日始めて教壇に立った大石先生の心に、今日始めて集団生活につながった十二人の一年生の瞳は、それぞれの個性にかがやいてことさら印象ぶかくうつったのである。この瞳を、どうしてにがしてよいものか。

出欠をとった時、初めて「くん」づけで呼ばれたことにびくりにして返事がのどにつかえてしまった豆腐屋の息子。思わず「へイ」と返事をしてしまった料理屋の娘。村

人達の視線に怖気づいていた大石先生が、子ども達の姿に心を揺さぶられ、教師という仕事の魅力と意義とを強く感じとった場面です。

先日、『十二歳たちの伝説』（後藤竜二・作）で授業をした時、ある五年生が、「学校の先生には本当のことを言わないよ」と言ったことがきっかけで、子ども達が喋り出しました。「本当のことを言うと、何か言われそうだから言えない」「学校の中で、本音を言える先生は二〜三人くらいかな?」「保健室の先生は好き!」（これには全員頷く）等々。

『二十四の瞳』の大石先生が、初めて出会った一年生達の個性の輝きに励まされた場面が思い起こされます。勿論、時代も子ども達の置かれている状況も異なります。

しかし、先生と教師の「つながり」は、時代や環境が変わっても、「学校」の機能を支える土台に思えます。私に聞こえてくる子ども達の「声」は、この「土台」が崩れつつあることを示しているように思えてなりません。

超多忙な仕事、スタンダード化された業務が背景にあると思います。そうした学校現場で、まずは、若い皆さんに、在りのままの自分を大切にして追求して欲しいと願っています。自分に忠実であろうとする努力を止めたら、子どもの個性を引き出すこともできない筈です。子ども達は敏感ですから、「ああ、この先生なら本当の自分を出せる」と感じとってくれる筈です。そんな先生として、子ども達に繋がって欲しいと思います。

塾を通して、三十年以上子ども達に関わってきていますが、塾に通う子ども達はどうどん「大人しく」なっています。自分を表現しなくなってきました。私も、日々、胸を痛めています。

大変でしょうが、子ども達が在りのままに輝けるためにも、皆さんが、何よりも自分らしさを大切にして下さるよう願っています。一市民として陰ながら応援しています。

## 病 気

### ◆病気休暇

病気休暇は、90日まで有給で取得可。



## 子 育 て

### ◆育児休業

子どもが3歳に達する日まで取得可能（男性も可）

### ◆子育て休暇

子ども1人の場合7日、2人以上は10日取得可。子どものけがや病気の看護、学校行事が対象。

## 介 護

### ◆介護休暇

病気、負傷、老齢などにより2週間以上にわたり日常生活を営むのに支障がある者の介護をおこなうための休暇。1つの継続する状態ごとに6月の期間内

※範囲／配偶者、父母、子、配偶者の父母、祖父母、孫、兄弟姉妹、事実上の父母や子



絵・島ちづる

一人で悩まず、仲間に相談を  
職場のいじめ、パワハラ、セクハラ

048 (824) 2511 埼玉県教職員組合

048 (822) 7421 埼玉県高等学校教職員組合

# 生き生きと働きたい

## 働く

### ◆年次有給休暇

すべての教職員

### ◆生理休暇

1回の生理につき2~3日  
(電話で伝えるだけでもOK)



## 結婚

### ◆結婚休暇

結婚生活に入るための諸行  
事をおこなうために5~7  
日の休暇

## 妊娠

### ◆通院休暇

妊娠中および産後1年以内に、  
保健指導・検診審査を受けるための休暇

### ◆通勤緩和休暇

妊娠中、母体の健康維持をはかるために、一日1時間以内の勤務時間の繰り上げ・繰り下げができる

## 出産

### ◆出産休暇

労基法では産前6週(多胎児14週)、産後8週。2週間の加算があります。

### ◆出産補助休暇

配偶者の出産にあたり、夫である男性教職員に2~3日の範囲で認められる

